

\*今回は高幡不動尊周辺の歴史を、利用者さんから伺った内容を交えながら紹介させて頂きます。

## 高幡不動駅



1996年当時の高幡不動駅



1960年当時の高幡不動駅

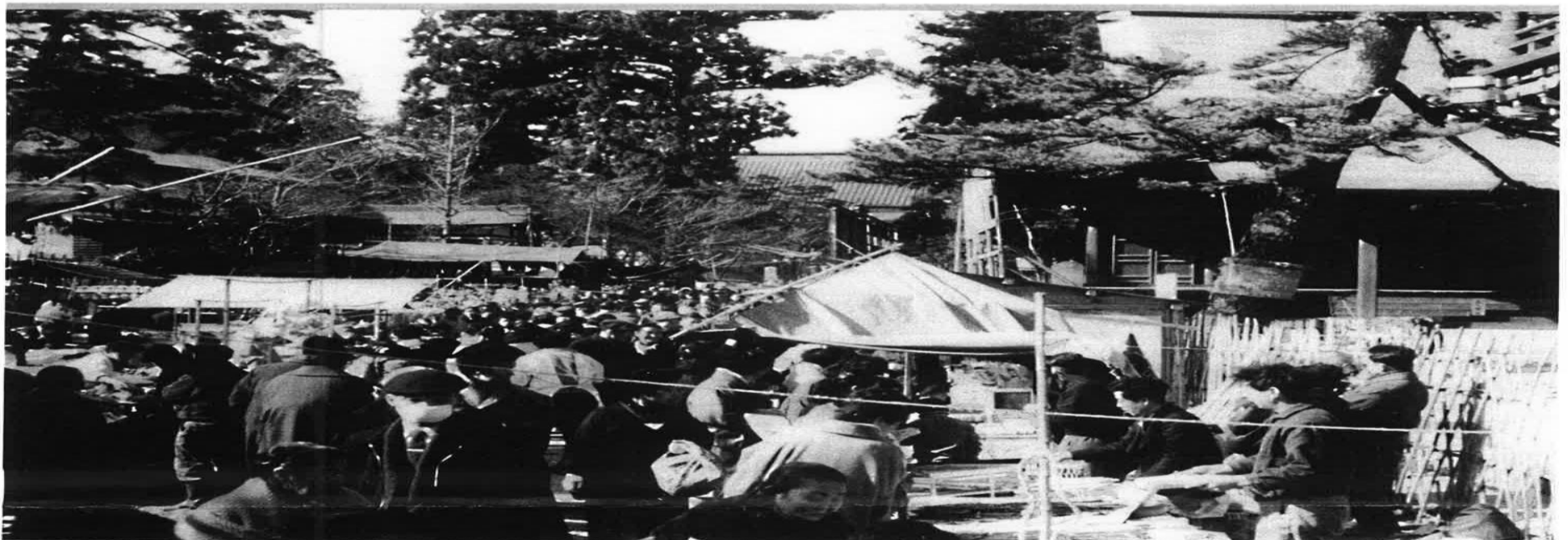
### 高幡不動駅

以前の高幡不動駅は、現在のおおまさ寿司の場所に作られていた。右の一番下の写真が当時の物である。現在の駅と比べ、のどかな様子がうかがえる。また駅前から高幡不動尊までは、桜の木が植

えられていた。現在のロータリーは、以前は水田が広がり、正月飾りを焼くサイノカミなども行われていた。また駅のホームからは百草駅が見え、百草駅に電車が来た事が把握できた。

### 高幡不動尊

毎月二十八日に行われる高幡不動尊の縁日の写真である。この写真は昭和三十年代の物である。現在五重塔がある写真左手は、当時は広場や舞台があった。そこでは様々な演芸が行われていた。当時の主な楽しみは催し物が多くを占めており、高幡不動尊の中でサーカスや人形芝居が行われることもあった。またお稚児さん行列も行われ、当時は着物姿の人も多く、それをカメラで納めようと多くの外国人が見物に来たとの事。  
現在ではそのような光景は見られなくなっているが、菊祭りやあじさい祭り等形を変え、現在でも市民に慕われる催し物が開かれる場となっている。



## リハビリ日誌

時折、皆さんから他の方はどのようなリハビリをしているのかと聞かれる事があります。その声に心えて十二月号では、新たにリハビリ日誌を作ってみました。訪問リハビリで、どのような関りを行っているかをまとめています。内容に関してのご意見、ご感想を頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。

### 八十年代 男性 脳梗塞

脳梗塞を発症。リハビリテーション病院を経て自宅に退院。自宅の前に階段があり、入院中に階段昇降練習を実施。ただ実際に退院すると介助が難しく、デイケアサービスの利用が困難であった。その為訪問リハビリでは、階段昇降動作の改善を図り、デイケアサービスの利用ができる事を目標に開始。

主に娘様と階段昇降動作を練習。反復した動作練習や手摺りの検討等を行い、娘様を中心とした二人介助で昇降が可能となった。その後は体力を維持する事や、様子の確認目的で訪問リハビリを週一回継続している。

現在もデイサービスには安定して通え、家族との通院や外出も行えている。

また支援経過の中で身体障害者手帳を取得。現在はガソリン券の取得、特別障害者手当の受給、プラスチック装具の再作成等、手帳を利用し様々な支援を受ける事ができている。

### 娘様の声

父が入院した当初は、コロナの為、一切面会ができず、身体の状態も全く分からないまま退院となり、車椅子さえ押した事がなかった私は不安しかありませんでした。トイレの入り方、着替え、移動する事の大変さなど、父も私達家族も安定した日常生活を送れるようになるまで、一年以上かかりました。たくさんの方々にサポート、アドバイスを頂き、支えられてここまでやってこられました。もうすぐ今年も終わり、来年になると父は年男です。お箸が使えるようになった左手でお節料理を食べながら、家族みんなで箱根駅伝を見ながら過ごしたいと思っています。

## 編集部員のつぶやき

ダイエットをしよう。

いつ思ったか分からないくらい前から、そう決意している。子供が生まれ、一歳になった頃から、子供と長く遊ぶため、自分の為と思い、本格的にダイエットを実行。徐々にではあるが体重が減り、ピーク時と比べ10kgのダイエットに成功した。健康診断の結果も改善。妻からも普通の体型になったと言われた。

ところで、普通とは何か。最近の社会では多様性を理解する事の大切さをしきりに発信している。我が息子が見ているきかんしゃとトーマスの歌にも、「それぞれ違ったく、力合わせてく♪」と歌われている。

最近の世の中で普通という概念が無くなってきているように感じる。普通になるのではなく、人それぞれの個性を尊重するという事なのだろう。個性の尊重という事で、実際に妻の良いところを考えてみた。働き者で、子供と熱心に遊ぶ。今年の最後に一年間の労いも含め、口に出して伝えてみよう。

訪問リハ新聞編集部 佃文王

ありがとうございます。